



CSRレポート 2009

Corporate Social Responsibility Report





人との 出会いに感謝、 平和を大切に

代表取締役社長 木本 和伸

KIMOTOは1949年に現在のさいたま市で起業し、今年で起業60周年を迎えることができました。当時、日本の復興のため新たな地図作りに貢献すべく、創業者が選んだ道は空中写真の現像サービスでした。その後、官公庁が扱う地図のため、伸び縮みが少なく、破れにくい紙（アルミケント紙）を独自に開発し、国指定の地図用紙として採用いただきました。この用紙で特許を得たことをきっかけに、次々と新製品を開発し、技術のKIMOTOとして今日に至っております。

家族的経営をモットーとし、まずは従業員が気持ちよく働き、その家族と親戚が円満に暮らす。そして、KIMOTOはその地域に生活している方々と末永く「共生共栄」していくことに努めます。

1970年代から創業社長木本氏仁は、お取引先、地域の皆様、従業員のために、スキー大会、自動車ラリー、アルプホルン演奏会、英会話教室など数々の企画を立案実行してきました。なかでも、ワールドカップ出場経験のあるドイツのプロサッカー選手を招いての「サッカーコミュニケーション」は1989年から1997年まで、全国の自治体で開催され、各地のマスコミにも取り上げられました。開催にご協力いただいた市区町村役場のロビーには、現在でも当時の写真や、選手のサイン入りサッカーボールが展示してあります。CSRという言葉がまだ知られていない時代から、このような活動を行っていたことはKIMOTOの誇りとするところです。

現在では、三重県で「KIMOTO杯スポーツ少年団軟式野球大会」を主催し、地元小学生のスポーツ活動のお手伝いをさせていただいております。

利益を還元することのみではなく、このような活動をKIMOTOの社会的責任として、多くの株主様をはじめとするKIMOTOとかかわりのある皆様にご理解いただけるよう今後も努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

企業理念

KIMOTOは、技術開発型の企業としてグローバルに発展することにより、顧客・株主および従業員の満足を得ることに努め、地域の発展と繁栄に寄与し、地球環境をまもり、未来に向けて社会と共に前進します。

企業行動規範

この行動規範は、株式会社きもとグループが社会の信頼を得るために、役員および従業員一人ひとりが業務を遂行するときに企業倫理の観点から遵守すべき基本的事項を定めました。

私たちは、より質の高い行動規範として実行していきます。

1. 法令やルールの遵守と企業倫理
2. 顧客の信頼獲得
3. 取引先との信頼関係
4. 株主・債権者の理解と支持
5. 社員・従業員の連帯と自己発現への環境づくり
6. 社会とのコミュニケーション
7. 情報などの適正な管理
8. 政治・宗教との関係
9. 反社会的勢力および団体への対処
10. 地域社会との共生

編集方針

この「CSRレポート」は、KIMOTOの2008年度（2008年4月～2009年3月）の社会的貢献活動についてまとめた報告書です。本報告書は、KIMOTOとかかわりのある皆様、すなわちお取引先の皆様、株主・投資家の皆様、地域住民の皆様、ならびに従業員各位にお読みいただきたいと考えております。

Contents

- 01 トップコミットメント
- 02 企業理念・企業行動規範・編集方針

KIMOTOのCSR体制

- 03 コーポレート・ガバナンス
- 04 CSR推進体制

よき企業市民として

- 06 地域社会への貢献
- 07 環境保全活動

期待に応えるために

- 09 お客様のために
- 11 株主のために
- 12 従業員のために

- 13 会社概要・事業活動概要・財務情報
- 14 アンケート結果・編集後記

コーポレート・ガバナンス

KIMOTOは、公正な企業活動を旨とし、株主様をはじめとするKIMOTOとかかわりのある皆様に対する責任を全うするため、常に十分な説明責任を果たします。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

KIMOTOグループは、取締役会、監査役会を基本に継続的なコーポレート・ガバナンスの充実が経営の最優先課題であると考え、諸制度の整備と透明性の高い情報開示の実施を適時行うとともに、高い自律性、効率性ならびに競争力のある経営体制の確立を目指し、企業価値の向上を図っております。

KIMOTOにおいては、株主の皆様に対する経営陣の責任を明確化するため、取締役の任期を1年としております。また、経営会議、常務会等を設置せず、重要な業務執行および法定事項の決定ならびに業務執行の監督は、すべて取締役会で行っております。常勤監査役および社外監査役は、定例に開催されるすべての取締役会に出席し必要な意見を述べるとともに、取締役の業務執行状況の監査を実施しております。

KIMOTOは、以上のようなコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づく諸施策を実行し、企業価値または株主共同の利益の確保・向上を目指してまいります。

内部統制システム評価体制

KIMOTOでは「財務報告に係る内部統制」評価を2008年度より実施しております。不適合、統制不足が見受けられた場合に、すばやい改善を図る体制を構築しております。

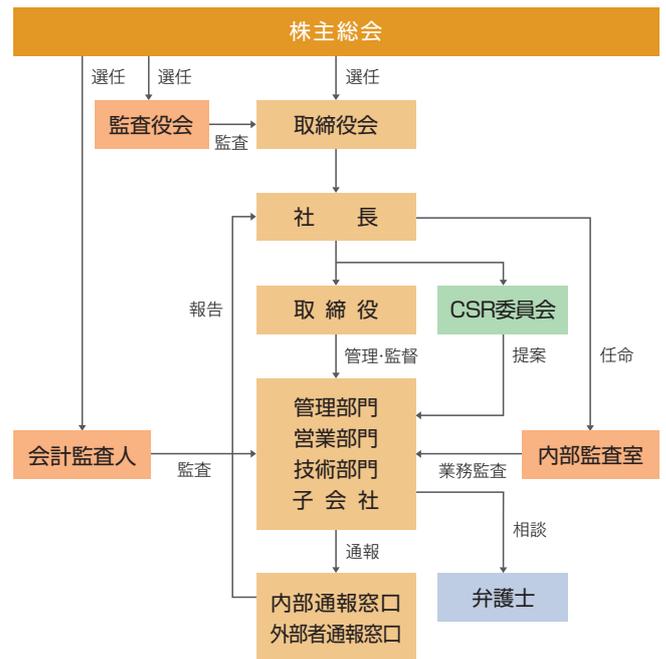
今後は、財務報告に係る内部統制の更なる有効性を確保するため、KIMOTOグループ全従業員が力を合わせてまいります。

リスクマネジメント

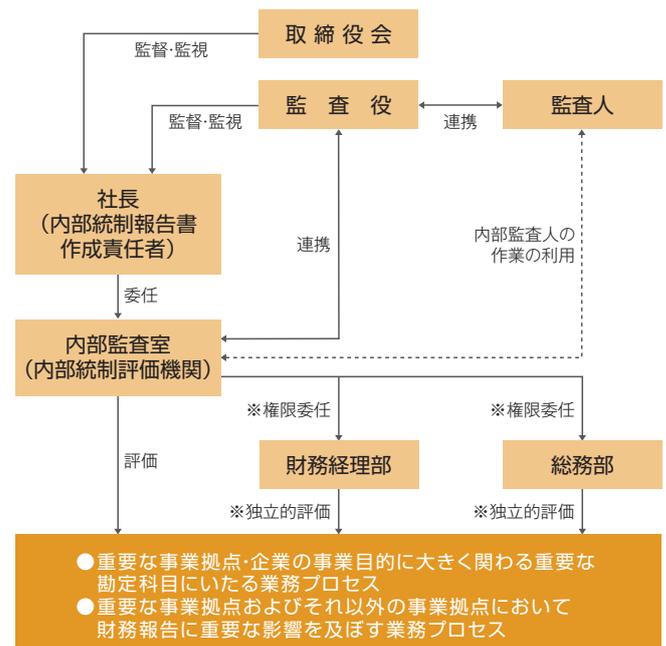
2006年に半年間活動した「リスク管理構築プロジェクト」により内部統制の一環として、KIMOTOグループのリスク抽出を行い、このリスク対策を実施してきました。しかし、前回の抽出から2年が経過し社会経済情勢や社内状況に大きな変化が見られるため、2008年8月に改めて「リスク管理プロジェクト」を発足させリスクの見直しを実施いたしました。

本プロジェクトのメンバーは、全社の管理・営業・技術部門から横断的に構成され、KIMOTOにおいて起こりうるリスクについて、①発生頻度、損害規模、対策状況の見直し、②リスクの数値化と分類判定、③重点リスクの選定を行いました。

これらの結果を基に、本プロジェクトから担当部署へ重点リスクの改善策の検討をするよう提言しました。



■財務報告に係る内部統制の評価体制



- 重要な事業拠点・企業の事業目的に大きく関わる重要な勘定科目にいたる業務プロセス
- 重要な事業拠点およびそれ以外の事業拠点において財務報告に重要な影響を及ぼす業務プロセス

CSR推進体制

社会の中で、社会とともに。KIMOTOは、社会に開かれた企業として、本業をとおして社会的な役割を全うします。

株式会社きもと CSR基本方針

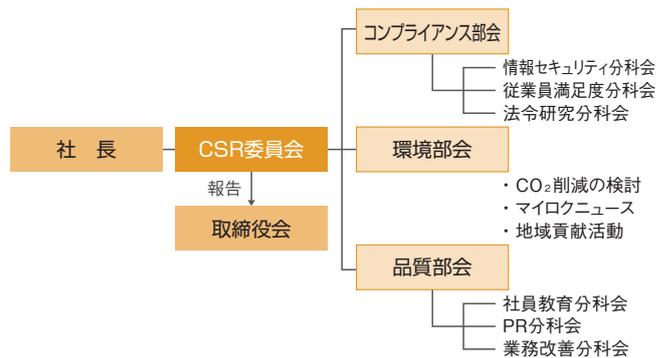
株式会社きもとは、事業活動に伴い生み出される経済的価値のみに着目することなく、自発的に社会的価値と責任を重視し社会の持続的な発展に貢献する経営を行うために、以下の方針を定める。

- ・事業活動にかかわる法律を遵守し、善良な企業あるいは企業人としての姿を追求する。
- ・環境保全活動に注力し、可能な限り環境負荷を低減する事業活動を展開する。
- ・顧客重視の事業活動を行うことで、顧客との相互発展を通じて社会貢献を目指す。

CSR推進体制・部会活動について

KIMOTOでは、2005年にCSR委員会を発足後4年間、3つの部会を設置し、各組織への方向付けと活動推進に注力してまいりました。

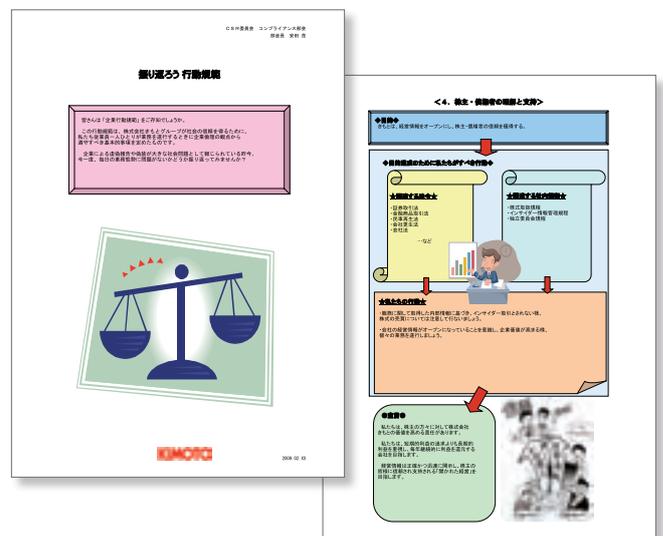
各部会のメンバーは、社内公募も含め各10名位とし組織横断的にできるだけ多くの方に参加をしてもらっています。また、2008年度は各部会の部会長の交替も行われ、新体制で活動が行われました。今後は、部会編成の見直しなどを行い、さらに充実したCSR活動を行っていきたいと考えております。



企業行動規範解説書の作成

最近、残念なことに企業の違法行為に関するニュースが増えています。そこで、CSR委員会コンプライアンス部会では、コンプライアンス（法令遵守、社内規程遵守）の原点に戻り、KIMOTO従業員への呼びかけを検討しました。

その結果、すでに社内にて制定されている「株式会社きもと企業行動規範」に着目し、「振り返ろう 行動規範」を合言葉とする「企業行動規範解説書」を作成しました。これは、企業行動規範の内容と各種法令および社内規程を整合させ説明したものです。これにより、やや具体性に欠ける内容だった企業行動規範に明確な行動指針が盛り込まれ、通常触れることの少ない関連法令や社内規程についても知ることができるものとなっております。この解説書を活用し、従業員一丸となって公正な企業活動に邁進していきたいと考えております。



情報セキュリティの取り組み

携帯電話の高機能化、パソコンの小型化、USBフラッシュメモリの低価格化や大容量化に伴い、今まで以上に情報漏えいの危険性が高まっています。

CSR委員会コンプライアンス部会では、情報の漏えいを防ぐには従業員一人ひとりが危険を認識し、普段からセキュリティへの関心を持つことが重要と考えました。

そこで、全従業員から情報セキュリティに関する標語を募集し、その中から「セキュリティ あなたが守る 会社の信用」を採用し、啓蒙ポスターを作製、配付いたしました。

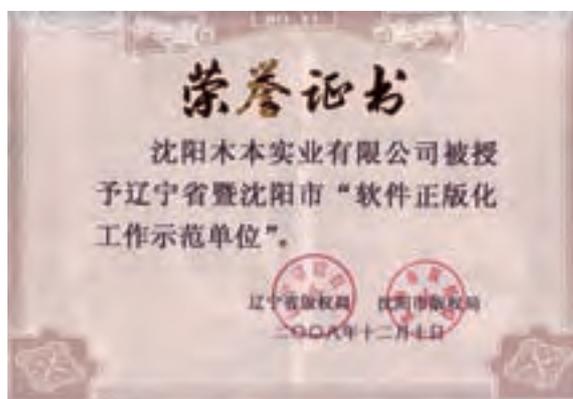
また、ポスターの配付と同時に、情報漏えい事件の発生状況や実例をまとめた資料を作成し、従業員の指導に役立てております。



使用ソフトウェアの調査

昨今、デジタル著作物の厳正な運用が以前にも増して求められるなか、コンピュータソフトウェアについて2回目の全社実態調査を行うとともに啓蒙活動を実施いたしました。使用本数の多い代表的な汎用ソフトウェアの利用状況を調査した結果、すべてのパソコンで適正に使用されていることを確認しました。今後も、コンピュータソフトウェアの著作権を尊重し、啓蒙活動を続けてまいります。

なお、KIMOTOの子会社である中国の瀋陽木本実業有限公司では、違法コピーソフトの不正使用が一切無い優良事業所として、瀋陽市から表彰されております。



瀋陽市から贈られた荣誉证书

「就業規則」における『休暇』『休業』『休職』について

「就業規則」の中には探している項目が見つげ出しにくいことや、記載内容がわかりにくいことがあります。そこで、CSR委員会コンプライアンス部会では、就業規則をわかりやすく活用しやすいものにはできないかという観点からテーマの検討を行いました。従業員の関心が高い『休み』をキーワードとし

「就業規則」に規定されている『休暇』『休業』『休職』をわかりやすく解説した一覧表を作成しました。また、あわせて人事部へ寄せられた質問事項をQ&Aにまとめました。これにより特別休暇等の取得可能日数やその取得条件がわかりやすくなりました。

地域社会への貢献

小さな前進でも一歩ずつ。KIMOTOは、どんなに小さなことでも、自分たちにできることがあれば必ず実行に移します。

地域社会への貢献

支店・工場周辺清掃

支店および工場では、始業時間前の早朝や週末を利用し、事業所周辺の清掃を積極的に行っております。



2009年3月27日にはクリーン大作戦として総勢90名で三重工場周辺の清掃作業を行いました。2トラック約1台半分のゴミが回収されました。

エコキャップ推進協会に参加

各事業所では、PETボトルのキャップを回収し、世界の子供たちにポリオワクチンを届ける仕組みに協力しています。

リサイクル紙で地域貢献

札幌支店では、リサイクル可能な紙を業者に持ち込み、ポイントを獲得し、そのポイントを、介護用品に交換し、養護学校などへ寄贈する予定です。

「まもらいだー」

仙台支店では2007年3月から仙台市防犯車両「まもらいだー」に参加しています。実際の犯罪の現場に遭遇することはありませんでした。

第4回KIMOTO杯 スポーツ少年団軟式野球 大会開催

三重工場では地域の活性化を図る目的でKIMOTO杯スポーツ少年団軟式野球大会を毎年開催しております。



中国・四川大地震被災者への救援金寄付

2008年5月12日に中華人民共和国四川省で発生した大地震の被災者に対する救援金を、日本経済新聞社を通じて日本赤十字へ寄付いたしました。

国際連合世界食糧計画WFP協会 協議員入会

KIMOTOは2008年5月、国際連合世界食糧計画WFP協会に協議員として入会いたしました。

TOPICS »

福祉活動に愛の手を

体に障がいを抱えている児童を慰問

2008年11月7日、瀋陽木本実業有限公司(SKI)の慰問団が瀋陽市於洪区造化郷の市児童社会養護院を訪問し、そこで生活している子供たちを見舞いました。そして洗剤と紙オムツなど生活日用品をSKI全従業員からの気持ちとして寄付いたしました。

約300人余りの子供たちがここで生活し、勉強しています。多くは心や体に障がいを抱えていたりする子供たちです。私たちは子供たちの境遇と将来のことを考えると、もっと子供たちに愛の手を差しのべてあげたいと思いました。

このようなCSR活動はSKIの重要な企業理念のひとつです。“私たちはこれからも最大限の力を尽くして、社会のために貢献します!”、これは私たち、SKI従業員の共通の願いです。

社員コメント

愛情のある社会貢献の継続

瀋陽木本実業有限公司
劉 玉紅



2008年11月7日会社の部門代表とともに瀋陽市児童社会養護院の子供たちを慰問する機会があり、その際、洗剤、紙オムツなど生活必需品を寄付いたしました。

養護施設にいる子供たちの様子を見ると心が痛みます。

陳社長は、とても親身になり障がいをもっている児童の生活と学習の状況を聴きました。この経験から障がいをもつ人たちに対し、関心をもち、社会貢献することを責務と考え、行動していきたいと思います。

手をさしのべる少しの力、愛情のある社会貢献の継続、これからもCSR活動に期待します!

環境保全活動

できることから大胆に。CO₂の排出抑制は、待ったなしの状況が迫っています。私たちの中で、果たせる責任に徹底して取り組みます。

技術開発センターでの取り組み（ゴミの分別）

技術開発センターでは、廃棄物の分別一覧表を倉庫内に掲示し、分別意識の向上を図っております。

「分ければ資源!」をモットーに、従業員一人ひとりが意識的に分別することで、一般廃棄物の量は減少し、再利用資源としての排出量が増加し続けております。

その結果の確認のため、毎月発生する廃棄物の量を把握し、その排出～運搬～最終処分までを「マニフェスト」に記入し、管理しております。

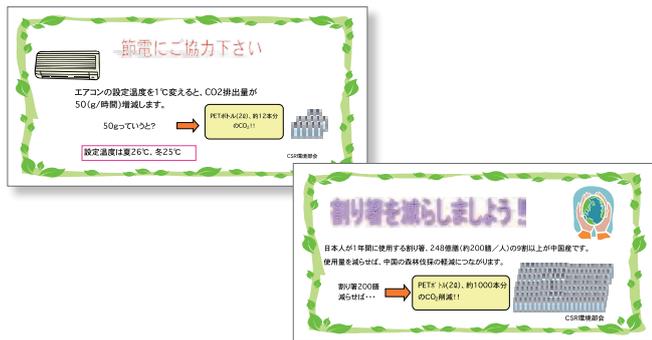
また、廃有機溶剤、廃プラスチック等の削減は、適正在庫量の把握と廃プラスチックのマテリアルリサイクル化などにより実現しております。「事前に分類・分別し適正・適法な廃棄処分を」と考え、着実な廃棄物の削減を進めております。



CO₂削減意識の向上

KIMOTOでは、地球温暖化ガス排出量削減目標を「2010年度に、原単位で1990年度比10%を削減する。」としております。設備の改善や、生産効率の向上による削減を計画しており、主に製造工場が中心となって活動を行っております。

さらに活動を全従業員に広げるため、CSR委員会環境部会が中心となって、CO₂削減意識の向上を目的とし、ポスター



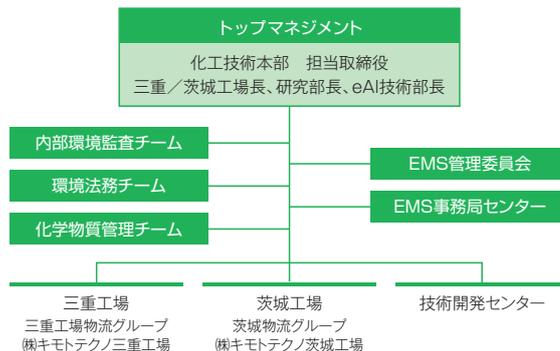
EMS活動

KIMOTO技術部門では、2001年環境マネジメントシステム【ISO14001:1996JSAE938】の認証を取得し、改善活動を継続しております。

世間の関心が高いCO₂ガス削減のため、冷暖房の温度設定や、ノー残業デーの実施、フォークリフトのバッテリーへの転換などを実施しております。さらに今後に向けて太陽光発電の利用や、燃料の重油を天然ガスへ転換するなどの検討も行っております。

KIMOTO技術部門では、環境マネジメントシステムのPDCAを回すべく活動を続けてまいります。

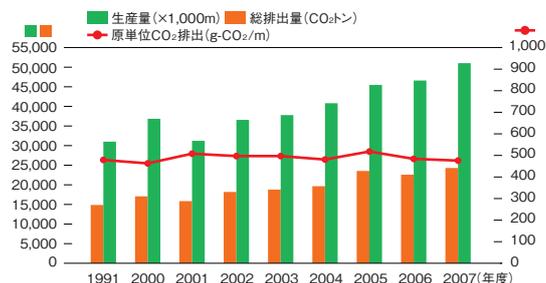
EMS組織図



やステッカーの作成、クールビズ等を実行しております。

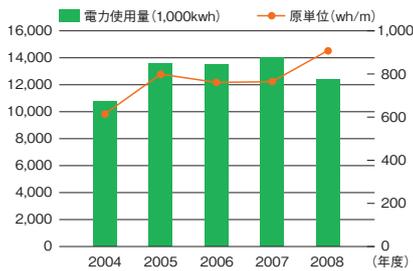
ポスターやステッカーは、車やオフィス、そして家庭でもできるCO₂の削減方法や、その効果(CO₂の排出量や削減量)をPETボトル(2ℓ)に換算して表示するなど、工夫を凝らしわかりやすくなっております。

CO₂排出量(全社)



工場環境データ

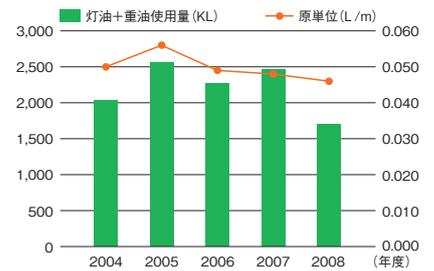
■電力使用量



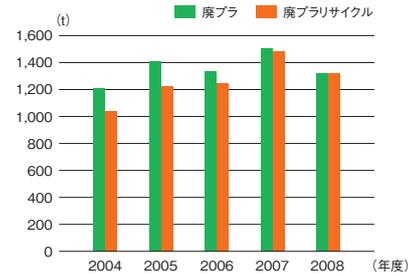
■用水使用量



■燃料使用量



■廃プラスチック発生量



■有機溶剤使用量



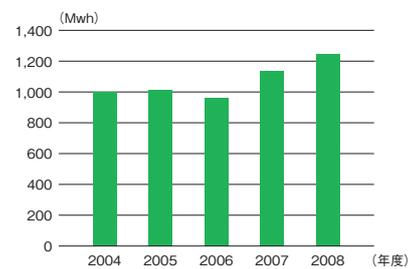
■廃溶剤発生量



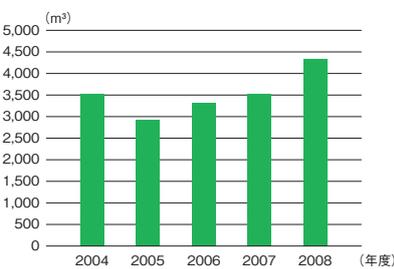
注) 原単位とは、使用量をフィルム製品の製造量 (m, m² 数) で割ったものです。

技術開発センター環境データ

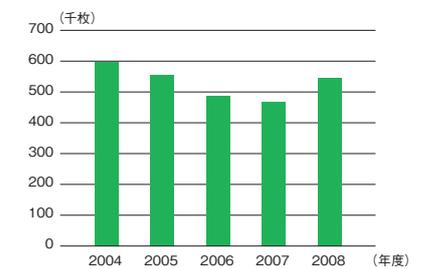
■電力使用量



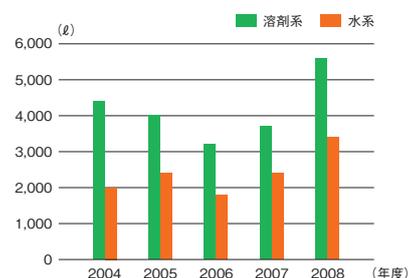
■水道水使用量



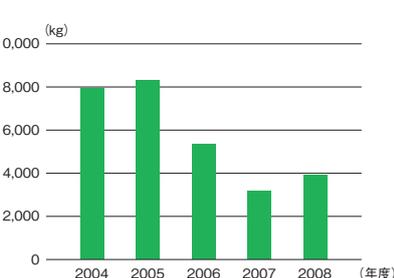
■コピー紙使用量



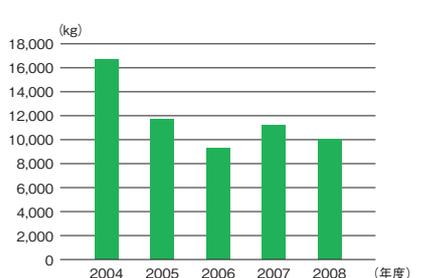
■廃油発生量



■一般廃棄物発生量



■廃プラスチック類発生量



お客様のために

品質は、お客様が求める満足の基本です。私たちは、お客様が求める以上の品質を常に目指し、法規制を遵守し、全社をあげた品質マネジメントの周知徹底に努めています。

株式会社きもとの品質方針

株式会社きもとは、製品の設計・製造・販売及び機能性フィルム事業部門で扱う商品の販売を通じて、良き企業市民として、地域の発展と繁栄に寄与し、顧客・株主並びに従業員の満足を得ることを目指し、以下に当社の品質方針を定める。

1. 要求事項への適合及び法規制を遵守し、品質マネジメントシステムの有効性について業務の標準化を追求し継続的に改善する。
2. 「顧客の求める水準で安定した品質」「顧客の満足する価格」「顧客の求める納期」を追求し、顧客ニーズに適合した製品、商品及びサービスを提供する。
3. 品質方針の周知徹底を図り、従業員の一致団結のもとに信頼性の高い開発型企業を構築する。

ISO活動状況(QMS)

現在、KIMOTOのQMSは、2009年2月の拡大維持審査で取り込んだ、株式会社キモテクノを含め8部門に分かれ、各部門に品質管理責任者を置いて活動しております。2008年度は3部門、2009年度も2部門で品質管理責任者の交代を予定しております。新旧交代による新しい風で、PDCAを有効に回していきたいと考えております。

今は世界的な不況の中にありますが、品質改善、向上にさらなる目を向けるためには最適な時期であると考えております。2009年度は、3年に一度の更新審査もありますので、さらなる品質と顧客満足度の向上に努めてまいります。

有害物質管理について

近年の欧州RoHS指令、REACH規制など製品に対する化学物質規制が急速に高まってきております。このような背景から、2007年9月より機能性フィルム製品に対する「化学物質管理システム」を構築し、運用を開始しております。

このシステムでは、化学物質を右表の2種類に区分して自主基準を制定、管理するとともに、製品設計から原材料の調達、製造、出荷にいたるすべてのプロセスにおいて実施すべき項目を定め、これに従い運用することにより環境リスクの低減に努めております。

また、仕入先に対してもKIMOTOの基準および法規制等

■QMS組織図



に対する遵守と、環境保全への取り組み状況、納入品の含有化学物質情報の提供をお願いし、化学物質の管理に活かしております。

区分	定義	対象物質
使用禁止物質	使用を禁止している化学物質	鉛、水銀、PCB、アスベストなど17物質
管理物質	使用に当たって、一定の範囲内で使用する管理対象の化学物質	ヒ素、ベリリウムなど9物質

工場での品質管理

より良い製品をお客様に提供すべく、原材料調達、製造、出荷のすべてのプロセスにおいてQMSに基づいた品質管理活動を展開し、品質の維持、向上に取り組んでおります。

原材料の調達においては、より良い製品を作るにはより良い原材料の調達が重要との考えから、すべての原材料はその要求品質レベルに応じた受入検査を実施し、合格品のみを使用しております。また、得られた受入検査データは原材料メーカーにフィードバックし、原材料のより一層の品質向上に活用しております。

すべての製造工程においては、作業の標準化と工程内検査による品質管理の徹底を図っております。各検査工程で使用される検査機器については定期的に保守、点検、校正等を実施し、その信頼性の維持を図り、また欠点検出器の活用による外観検査の自動化を推進しております。

さらに、各種分析装置を設置しており、これらを駆使して品質改善活動を展開しております。

社員コメント

品質管理の現場で働いて

三重工場
青木 沙希子



私は工場で生産される製品の検査に関する文書(検査指示書など)の作成を主に行っています。文書化することで、誰もが同じ作業を行えるということは、安定した品質の製品を提供するために必要なことだと考えております。

また一年ほど前からはお客様のご要望により、原材料の品質管理を行っております。製品品質を損なう恐れのある品質の材料の使用を防ぐのが目的です。初めは不慣れなことばかりでしたが、関連部署の方に協力いただき、またお客様にもアドバイスをいただきながら、軌道に乗せることができました。

品質管理には終わりや完璧はないと思います。できることをひとつひとつ行いながら、お客様に安心してKIMOTO製品をご使用いただけるようにしていきたいと思っております。

お客様の声

日本写真印刷株式会社

日本写真印刷株式会社は1929年に創業し、高級美術印刷分野でその評価を確立してきましたが、近年では印刷をベースに培った独自技術でグローバルに活躍しています。ノートパソコンや携帯電話、自動車の内装部品などの製品表面を美しく加飾するIMD分野や携帯電話や携帯ゲーム機などに用いられる中小型タッチパネル分野では、世界トップクラスのシェアを誇ります。

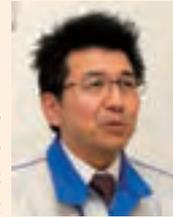
購買部長 兼
購買管理グループ長
山川 篤宏様



産業資材・電子事業本部
電子生産統括本部
モジュールビジネス部 部長
北村 英之様



産業資材・電子事業本部
技術開発本部
第六グループ グループ長
西川 和宏様



2008年9月に三重工場を訪問させていただいたとき、工場の説明をしていただいたのが若い女性の方でした。何回も練習した様子がうかがえ、大変誠実な対応でうれしかったです。事業継続という大きな観点で見ると、若い人への指導がきちんとされていることは企業にとって重要なことで、KIMOTOさまと仕事をしていたよかったと思います。

KIMOTOさまには常に妥協することの無い最高品質を目指して対応していただいています。我々は競争に勝つために、一番いい材料を求めており、今後も製品の要求仕様はどんどん厳しくなっていくと思われまいますので、より一層の品質向上にご努力いただければ幸いです。

KIMOTOさまの製品は、当社の製品の一番おもてに出ていますので、当社製品の最初の評価イコールKIMOTOさまの製品の品質であり、大変重視しています。KIMOTOさまの製品の最終的な量産における品質特性が非常に優れているのは、初期における当社向け製品の開発経験が生かされているからで、他社と違うところだと思っています。

株主のために

企業価値を高め、株主・投資家の期待に応える——KIMOTOはこの基本を大切に、日々、積極的な企業情報の開示に努めています。

「東証 IR フェスタ」に出展

2009年3月6日、7日の両日、水道橋東京ドームシティ「プリズムホール」で開催された個人投資家向けIRイベント「東証IRフェスタ」に出展いたしました。会場では、約52社がブースを構え、東京証券取引所の発表によりますと、2日間で9,070名の来場者があり、盛況のうちに終了いたしました。

東証IRフェスタへの出展は、今回はじめてでしたが、約1,500名の投資家の皆様に接する機会をいただき、KIMOTOの製品、技術についてご紹介させていただきました。

今後も、投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に推進するために、各種イベントへ参加していきたいと考えております。

「株主懇談会」を開催

毎年6月開催の定時株主総会終了後、営業本部長による新年度営業計画の発表を中心とした株主懇談会を開催しております。株主の皆様へKIMOTOをよりご理解いただくことを第一に考え、話題の新製品および新技術をサンプル・使用例を交え、わかりやすく紹介しております。その後、KIMOTO全般にわたるご質問を株主の皆様よりいただき、社長はじめ経営陣が直接回答しております。

株主の皆様のご理解を深めていただくため、今後も開催していきたいと考えております。

買収防衛策

KIMOTOは、KIMOTOの企業価値または株主共同の利益を毀損する株券等の大量買付行為に対応するために「当社が発行する株券等の大量買付行為に関する具体的な対応策」を策定し、2008年6月27日の定時株主総会にてその導入をご承認いただきました。

これにより、KIMOTO株券等に対する大量買付行為が行われた際に、KIMOTO株主の皆様が適切に判断していただくための時間と判断材料を確保し、KIMOTOの企業価値と株主共同の利益の確保と向上が図れるものと考えております。なお、本対応策の詳細はKIMOTOホームページの株主・投資家情報をご覧ください。

<http://www.c-direct.ne.jp/public/japanese/uj/pdf/10107908/20080509152287.pdf>



株主還元

剰余金の配当等の決定に関する方針

KIMOTOは、連結ベースでの業績に応じた利益の配分を基本とし、既存事業の体質強化および将来の戦略分野への投資に必要な資金を勘案し、配当を実施することとしております。連結ベースでの業績に応じた利益配分の指標としましては、年間連結配当性向20%以上を基準とし、目標値といたしましては年間連結配当性向30%を掲げております。

このような方針ではありますが、2009年3月期の期末配当金は、当期の業績を勘案いたしまして1株当たり4円とさせていただきます。これにより、中間配当金6円と合わせた年間配当金は10円となりました。

また、2010年3月期の配当金につきましては、2010年3月期の業績予想を勘案いたしまして、1株当たり年間6円とさせていただきます。予定であります。

自己株式の取得結果	
取得株式数	30万株(発行済株式総数に対する割合1.10%)
取得総額	91,278,900円
取得期間	2008年11月12日～2008年12月12日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

従業員のために

一人ひとりの頑張りが KIMOTO を支えています。従業員のやる気こそ、あしたの希望の源泉であり、KIMOTO の成長を確実にします。

Polar Star の活用方法

三重工場および茨城工場では、OJT(On-the-Job Trainingの略)だけではなく、職場教育の一環としてPolar Star(実務教育映像)を活用した基礎知識習得のための取り組みを行っております。

特に新入社員は、総合研修終了後、Polar Star工場概要の映像を視聴し製品ができるまでの流れや、部署の役割、現場の雰囲気などを事前にバーチャル体験することができます。また、効率的な生産活動だけでなく、新人が安全・快適に仕事を行うために必要な知識習得に最適なツールとして活用されております。



KIMOTO用語集の作成

KIMOTO社内では、通常より様々な専門用語が使われております。そこでCSR委員会 品質部会では、新人教育や通常業務に役立てることを目的とし「KIMOTO用語集」を作成いたしました。これは、KIMOTOの社内で使われている「わかりにくい言葉」「知っておいてほしい言葉」を全従業員から集め、解説を入れ取りまとめたものです。

今後、さらに内容の更新や写真を入れるなど、より活用しやすい用語集にしていきたいと考えております。

裁判員制度

CSR委員会コンプライアンス部会では2009年5月21日から始まった「裁判員制度」に向け、従業員が裁判員に選出された場合の対応等を検討いたしました。

またご家族の皆様にも関わることでありますので、選出までの流れをわかりやすく解説した「裁判員制度の案内」を作成し配付いたしました。

同時に裁判に参加する際に必要な日数を特別休暇とする就業規則の改正もされました。裁判員制度という重要な役割を従業員が果たすために、働きやすい職場作りを図っていきたいと考えております。

多様な人材雇用

KIMOTOでは、性別に関係なく子育てに参加していただきたい思いで2007年より男女とも利用可能なイベント休暇を新設し、有効活用されております。

社員コメント

Polar Star を体験して

三重工場
高野直道



Polar Starの実務教育映像は、実務経験のない私にとってとても有意義であると感じました。いろいろな文書資料があっても、それがどのような物なのか分からないのが現状です。研修中は「あっという間に」時間が経ってしまったというのが正直な感想です。

映像を見ることによって現実の物の形と動きがわかりますし、注意ポイントがナレーション等によって表現されているところがわかりやすく、とても親切に感じました。

頻繁に行われない作業についても、Polar Starがあればその部分を繰り返し見ることができるので便利であると感じます。

これからも、Polar Star実務教育映像および現場指導を参考に、知識と実務の習得に努めていきたいと思っております。



女性管理職の比率は現在3.8%です。女性の方も管理職や指導的役割を担う総合職コースを積極的に選択しております。障がい者雇用率は1.2%で法定雇用率(1.8%)を下回っておりますが、配属にあたっては障がいのある方の適性を考慮し、長期的な就労に繋がる支援を行っております。

会社概要

名称	株式会社 きもと	工場	三重県いなべ市、茨城県古河市
所在地	160-0022 東京都新宿区新宿 2 丁目 19 番 1 号	技術開発センター	埼玉県さいたま市
設立	昭和 27 年 7 月 2 日	国内子会社	株式会社 キモテクノ (東京都) 株式会社 ケー・プランナー (北海道)
資本金	32 億 7,400 万円	海外子会社	KIMOTO TECH, INC. (米国) KIMOTO AG (スイス) KIMOTO POLAND Sp. z o.o. (ポーランド)
従業員	615 名 (平成 21 年 3 月末日現在)		瀋陽木本実業有限公司 (中華人民共和国)
営業拠点	本店 / 東京都新宿区 支店 / 札幌市、仙台市、さいたま市、名古屋市、 大阪市、福岡市 営業所 / つくば市 海外事務所 / 台北 (台湾)		稀本商貿 (上海) 有限公司 (中華人民共和国)

事業活動概要

電子・工業材料事業



電子・工業材料製品
プリント基板保護フィルム
高遮光性フィルム

上: 液晶パネル用光拡散フィルム (ライトアップ)
下: ハードコートフィルム (KBフィルム)

産業メディア事業



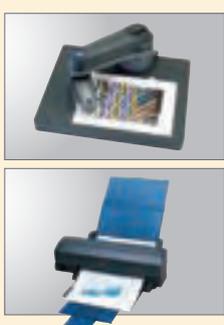
設計複写用フィルム製品
エコロジー製品 /
映像関連製品
宣伝広告印刷用フィルム

上: デイラッドバナー使用例
下: 光触媒セルフクリーニングフィルムの採用例

KIMOTO GROUP

株式会社きもと
株式会社 キモテクノ
株式会社ケー・プランナー
KIMOTO TECH, INC.
KIMOTO AG
KIMOTO POLAND Sp. z o.o.
瀋陽木本実業有限公司
稀本商貿 (上海) 有限公司

グラフィックス事業



グラフィックアーツ関連製品
サイングラフィックス関連製品
大型インクジェットプリンター

上: カラーマネジメントツール
下: キモプレート e2 + キモセッター

情報システム事業

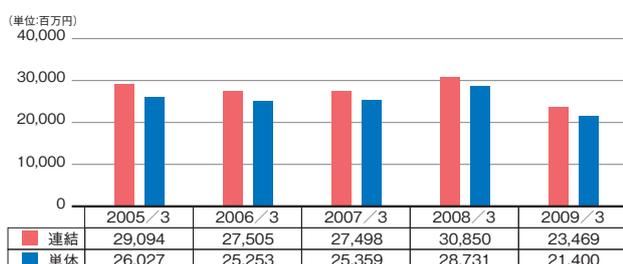


GIS
デジタル画像処理
パッケージソフト販売
航空写真販売

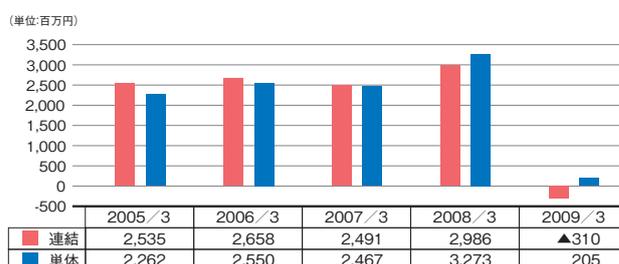
上: 地籍情報管理システム (Web 版 GEINS-PK1)
下: リアル 3D 造形サービス (映像投影ジオラマ)

財務情報

■売上



■経常利益



「CSRレポート 2008」 アンケート結果

2008年6月に発行した「CSRレポート2008」のアンケートで下記のような回答をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げますとともに、今後のCSR活動に反映できるよう努めてまいります。

Q1: 本レポートをご覧になってどう感じられましたか？

わかりやすさ	
大変わかりやすい	15
わかりやすい	51
普通	29
ややわかりにくい	2
わかりにくい	0
回答なし	0

内容の充実度	
大変充実している	13
充実している	48
普通	34
やや物足りない	1
物足りない	0
回答なし	1

デザイン	
大変見やすい	17
見やすい	46
普通	32
やや見にくい	0
見にくい	0
回答なし	2

Q2: 本レポートで興味をもたれた項目はどれですか？ (複数回答可)

トップインタビュー	24
KIMOTOの製品と社会	65
お客様のために	30
株主のために	11
従業員のために	59
地域社会への貢献	51
安全への貢献	20
環境保全活動	38
CSRを企業活動の核に	30
コーポレート・ガバナンス	12
コンプライアンス	17
子会社での取り組み	20
編集後記	4

Q3: 主にどのような立場でこのレポートをお読みになりましたか？

お客様	4
仕入先	0
株主・投資家	3
環境NGO/NPO	3
報道関係者	0
企業・団体の環境・CSR担当	2
研究・教育機関	2
学生	0
当社グループ各事業所の地域の方	4
当社グループ従業員または家族	76
その他	2
回答なし	5

性別	
男性	64
女性	27
回答なし	6

年齢	
10代	0
20代	15
30代	28
40代	29
50代	17
60代以上	8

編集後記

CSR活動を支える社員の皆さんも年々増えています。弊社のイズムをさらに表現できるようにしていきたいと思えます。

経営企画本部長 常務取締役 山縣 敏雄

今回のレポートは、初めてお客様を直接訪問し、取材させていただいたご意見を掲載しました。限られた誌面では一部しか載せられませんでした。伺った貴重なお話は今後の業務に反映させていきたいと思えます。

経営企画室長 木村 実

4月の人事異動でこのCSRレポート作成を引き継ぎました。作成にあたり思うようにいかないことも多々ありましたが、皆様の協力により無事発行することができました。関係者の皆様には、ここに感謝いたします。

経営企画室 鈴木 伸子



左から：
山縣・鈴木・木村

KIMOTO

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-19-1

TEL. 03-3350-4704

FAX. 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp/>



このCSRレポートは、FSC 認証紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しています。